

2021 年度 履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」

募集要項

1. 目的

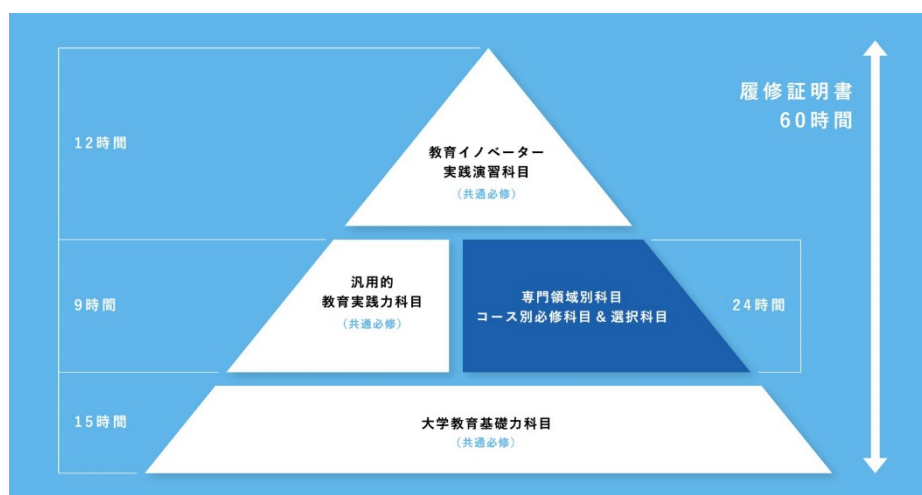
産学の連携により、学生がインターンシップで実社会を経験しながら、社会と結合した大学での学びに注力することが卒業後の活躍につながる社会、リカレント教育など社会人となっても学び続け、チャレンジし続ける時代がようやく到来するか、重大な岐路を迎えています。このような中で教育・雇用一体改革を軌道に乗せることに貢献すべく、学びと社会をつなぐことにより、学生の大学教育への動機付けを高めるとともに、社会人をリカレント教育へ惹き付けることを目指します。

本プログラムでは、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することを目的としています。

2. プログラム概要：履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」

履修証明プログラムとは、社会人等を対象に大学の教育・研究資源を活かし、一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムで、プログラム修了者には、学校教育法 105 条に基づき履修証明書（Certificate）が交付されます*1。

「産学連携教育イノベーター育成プログラム」は、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択された「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の取組の一環です。同取組では、実務家教員を育成する研修プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（以下、プログラム）*2を提供します。



*1：履修証明制度は、教育機関等における学習成果を職業キャリア形成に活かす観点から、現在政府全体で検討・推進している「ジョブ・カード制度」においても、「職業能力証明書（ジョブ・カード・コア）」として位置付けられています。履修証明プログラムを各種資格の取得と結び付けるなど、目的・内容に応じて職能団体や地方公共団体、企業等と連携した取組も期待されています。

プログラムは4つの科目で構成されています。その一つである「専門領域別科目」は、次のコースよりいずれかを選択してください。

東北大学「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」は、アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーやPBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）を含む教育実践、大学教員準備研修・新任教員研修や大学のリーダー育成のための履修証明プログラム（BP）など、大学教員育成に関する総合的な教育関係共同利用拠点として、海外大学との国際連携を活用して最先端のプログラムを日本に適合するよう内製化する形で開発・実施してきた知見の蓄積を活かし、産学連携によるリベラルアーツ教育を担う実務家教員の育成を目指します。（東北大学履修証明書発行）

熊本大学「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」は、企業内教育訓練を含む教育の効果・効率・魅力を高めるインストラクショナルデザイン（ID）の日本におけるメッカとも言える存在として、米国等における先進的取組と連携しつつ、日本初のeラーニング専門家養成大学院「教授システム学専攻」を設置・運営してきたオンライン実務家教育の専門性にに基づき、学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を産学に普及できる実務家教員の育成を目指します。（熊本大学履修証明書発行）

大阪府立大学「アントレプレナーシップ教育力育成コース」は、イノベーション創出型研究者養成カリキュラムとして、多数の企業の協力を得て大学院の正式科目として設置した産学連携科目・インターンシップにおいて、毎年約500人もの受講者を輩出してきた実績を活かし、アントレプレナーシップ教育を担う実務家教員を育成します。（東北大学履修証明書発行）

立教大学「リーダーシップ開発力育成コース」は、全国にその名を知られる「ビジネス・リーダーシップ・プログラム（BLP）」等の成果に基づき、チームでのプロジェクト実行等を通してビジネス・リーダーシップを体験的・段階的に身に付けさせるリーダーシップ教育を広く日本の高等教育において展開していく実務家教員を育成します。（東北大学履修証明書発行）

修了した際には、「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」「アントレプレナーシップ教育力育成コース」「リーダーシップ開発力育成コース」の3コースは東北大学長名にて、「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」は熊本大学教授システム学研究センター長名において履修証明書が発行されます。

3. プログラムの達成目標

本プログラムが育成する実務家教員「産学連携教育イノベーター」の人材像に必要な到達目標として、次の3つの学習成果の獲得を掲げています。これらの到達目標については、目標ごとに到達度を示すポートフォリオ評価を添えることにより、プログラム全体の学習成果を明示します。

- ① 大学教員として教育を担うための**基礎的知識・技能・態度を身につける**
- ② 各コース（東北大学「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」及び熊本大学「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」）に設定する**専門領域（汎用的な専門性）における教育実践力を身につける**
- ③ 学びと社会を繋ぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する**「教育イノベーター」としての変革力を身につける**

4. 応募資格

下記、①②の両方を満たす者。

- ① 大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
- ② 原則として専門的技術的又は管理的な職務において5年以上の実務経験を有する者

5. 定員 100名（4コース合計数）

6. 費用

- ① 入学金：なし
- ② 受講料：300,000円
審査結果通知書と共に振込依頼書を送付します。指定日（6月下旬～7月上旬予定）までに振込を完了させてください。支払われた受講料は、返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。
- ③ その他：集合研修等（演習や模擬授業等）への参加にかかる旅費・宿泊費等は自己負担とします。

7. 応募方法

- ① 応募期間：2021年4月26日（月）～5月17日（月）
- ② 応募書類：文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」産学連携教育イノベーター育成プログラム ウェブサイト（<https://jitsumuka.jp/innovator/>）にて応募書類をダウンロードし、必要事項を記載の上、提出すること。
 - ・申請フォーム（オンライン）
必要事項をウェブフォームに直接入力してください。本人確認のため、写真の提出は必須です。（アカウント登録すると入力データの一時保存が可能です。）
 - ・志望理由書（A4×3ページ以内）
以下の（1）～（4）の項目を見出しとして設定し、記述してください。
 - （1）仕事と学びに対する関心・経験
 - （2）本プログラムの受講動機と意欲
 - （3）現代の大学教育への関心・問題意識
 - （4）プログラム修了後のキャリアに関する抱負MS Word もしくは PDF にて作成し、申請フォームにアップロードしてください。
 - ・承諾書（内容の規定なし）※企業などの所属先より派遣される方のみ提出
所属先の方の了承のもと、当プログラムを受講していることの確認書類として、所属部署の長等の承諾書が必要です。
- ③ 申請先：産学連携教育イノベーター育成プログラム ウェブサイトより申請すること。
エントリー用 URL(2021年4月26日公開):<https://jitsumuka.jp/innovator/entry2021/>

8. 選考方法・日程

選考基準に基づき、選考を行う。

9. 2021年度スケジュール^{※1}

受講開始日	2021年7月18日（日）
大学教育基礎力科目（オンライン学習）	2021年7月18日～9月15日
汎用的教育実践力科目（オンライン学習及び対面演習 ^{※2} ）	2021年9月下旬～10月中旬
専門領域別科目（オンライン学習及び対面演習 ^{※2} ）	2021年10月～11月
教育イノベーター実践演習科目（オンライン学習及び対面演習 ^{※2} ）	2021年12月～2022年1月
修了日	2022年2月

※1：詳細は別紙「産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要」及び「産学連携教育イノベーター育成プログラム 日程表」を参照してください。

※2：新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、日程や実施方法等の変更を行う可能性があります。

10. 在籍期間

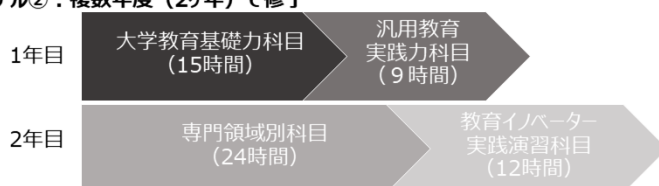
本プログラムの在籍期間は3ヶ年（2024年3月31日まで）とする。プログラムの受講については、下記モデルを参照。

受講モデル（参考）

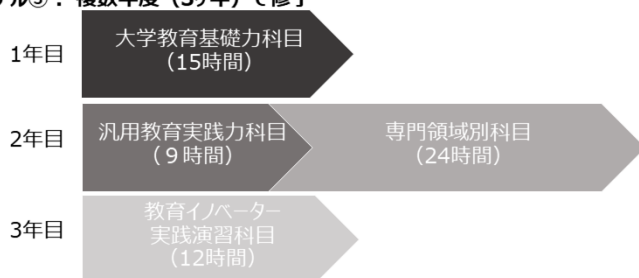
モデル①：同一年度で修了



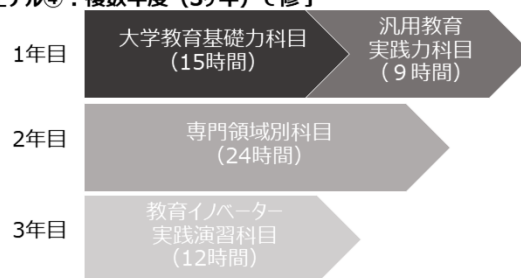
モデル②：複数年度（2ヶ年）で修了



モデル③：複数年度（3ヶ年）で修了



モデル④：複数年度（3ヶ年）で修了



11. 修了要件

- ① 開講期間内3ヶ年（2024年3月31日まで）以内に本研修プログラムの60時間の課程を履修し、全科目に合格すること。
- ② 履修大学において、教授会に相当する機関での認定を受けること。

※①②の修了要件を全て満たした場合に、学校教育法第105条に基づき履修証明書が授与されます。

【問い合わせ先】

産学連携教育イノベーター育成プログラム事務局

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41

Tel: 022-795-4471

Email: innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要

① 大学教育基礎力科目（15 時間：必修）※オンライン

【目的】大学で授業を担当するのに必須となる基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。

【学習目標】大学教育の動向や大学教員の役割・責務・倫理について正確な認識を持つとともに、インストラクショナルデザインやカリキュラムデザイン等の観点から、教育目標（期待される学習成果）の設定、学習評価、教育内容、教育方法、教材作成等に関する基礎的な知識・スキルを修得し、それらの応用により、実務経験の体系化・構造化とその学問的知識との関連付けを行うことを目指します。

【授業方法】受講生は、各学習項目に関する Web 上の動画を視聴し（オンライン学習：0.5 時間）、各項目について、Moodle 上で小テストに解答した上で、Moodle 掲示板上で講義内容に関する疑問・考察内容等を投稿するとともに、他受講生の投稿を読み、コメントを行う（Web コメント：0.5 時間）。最後に、本科目で学んだことに関する「大学教育基礎力レポート」の作成に取り組みます（レポート：3.0 時間）。

【成績評価方法】全ての学習項目において、小テストで 6 割以上正解すること、Moodle 掲示板へ投稿すること、並びに、他者の投稿にコメントすることを、大学教育基礎力レポートの提出前に満たさなければならない前提条件とします。大学教育基礎力レポートの評価は、100 点満点で、チェックリストによって評価します。同レポートの評価が 60 点以上であれば、本科目は合格とします。

学習項目		講 師	時間	概 要
1	オリエンテーション	大森 不二雄 （東北大学 教授） 杉本 和弘 （東北大学 教授）	1.0	本プログラムの目的、概要、特徴、進め方等に関する説明及び意見交換を行い、受講のレディネスを高めます。
2	大学教育制度論	大森 不二雄 （東北大学 教授） 杉本 和弘 （東北大学 教授）	1.0	大学の歴史的発展プロセスを振り返り、現代の高等教育を特徴づける 3 つの変化について学びます。その上で、日本で進行する大学教育改革の特徴を考察し、その中で教員が担うべき主体的役割について考えます。
3	学生・学習支援論	岡田 有司 （東京都立大学 准教授） 佐藤 智子 （東北大学 准教授）	1.0	大学生の抱える心理的・発達的問題を理解するとともに、学生支援や「合理的配慮」に基づく障害学生支援について学びます。さらに、学習観が転換しつつある現代に求められる効果的な学習支援のあり方について考えます。
4	カリキュラムマネジメント	杉谷 祐美子 （青山学院大学 教授）	1.0	大学におけるカリキュラムの歴史的変遷や現状を踏まえ、教育目的・教育目標を実現するための「カリキュラムマネジメント」の考え方や活用方法について学びます。
5	インストラクショナルデザイン	鈴木 克明 （熊本大学 教授）	1.0	教育や研修の効果・効率・魅力を高めるための道具である「インストラクショナルデザイン（ID）」の基礎理論や具体的手法について学びます。
6	授業設計論	平岡 斉士 （熊本大学 准教授） 合田 美子 （熊本大学 准教授）	1.0	学習目標、評価方法、教授方法を整合的にデザインする授業設計の方法を学び、実際に授業内外の学習をいかに設計して学習者に働きかけるかについて考えます。
7	教育改善論	高橋 哲也 （大阪府立大学 副学長） 緒方 広明 （京都大学 教授）	1.0	大学に関するあらゆる情報を収集・分析・活用する「インスティテューショナル・リサーチ（IR）」と、学習者の学習活動に関するビッグデータを収集・分析して教育改善等につなげる「ラーニング・アナリティクス（LA）」について学び、組織的な教育改善のあり方について考えます。
8	大学における倫理	山内 保典 （東北大学 准教授）	1.0	知の生産・活用に携わるプロフェッショナルとして、研究上・学習上のアカデミック・インテグリティ（学術的誠実性）を身につけること、大学におけるハラスメントを防止することの大切さについて学びます。
9	学習評価論	松下 佳代 （京都大学 教授）	1.0	「学習評価」の枠組み・方法を概観した上で、特に学習成果の多様な評価方法について具体例を通して学びます。また、学生を評価の主体として育てていく必要性について考えます。

10	オンライン授業実践論	根岸 千悠 (大阪大学 特任助教) 浦田 悠 (大阪大学 特任講師) 佐藤 浩章 (大阪大学 准教授) 村上 正行 (大阪大学 教授)	1.0	オンライン授業は、対面授業とどう違うのでしょうか。オンライン授業やeラーニングに役立つツール・手法を用いた実践事例を紹介しつつ、オンライン授業の実践時に配慮すべき10のポイントについて学びます。
11	ICT等先端技術活用教育論	戸田 真志 (熊本大学 教授) 松葉 龍一 (熊本大学 准教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 甲斐 晶子 (熊本大学 非常勤講師)	1.0	ICT等の先端技術を教育実践でどのように活用するのかについて、実際に教育現場においてSNSアプリやスマートスピーカーを用いた実践事例を紹介しながら学んでいきます。
12	実務家教員論	松井 利之 (大阪府立大学 教授) 広瀬 正 (大阪府立大学 特認教授)	1.0	実務家教員が必要となっている政策的・社会的要因を背景に、実務家教員の役割やその登用メリットについて学びます。さらに、先達教員の経験から、実務家教員に求められる心がけや姿勢について考えます。
大学教育基礎力レポート			3.0	12の学習項目を通して学んだことを振り返り、考察するレポートを作成・提出します。

②汎用的教育実践力科目（9時間：必修）※演習

【目的】大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得することを目的とします。

【学習目標】インストラクショナルデザイン、シラバス作成、研究指導について、集合・対面型のワークショップを通して、実際の教育現場で活用・応用できるようになることを目指します。

【授業方法】受講生は、各学習項目に関するワークショップに参加し（3.0時間）、ワークを通して1～3の学習項目ごとに成果物（授業計画やシラバス等）を完成させます。

【成績評価方法】各学習項目（各演習）受講後の成果物について、到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を100点満点で採点し、60点以上で当該項目を合格とします。汎用的教育実践力科目を全体として合格するには、3つの学習項目の全てを合格する必要があります。

学習項目		講 師	時間	概 要
1	インストラクショナルデザイン演習	鈴木 克明 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 合田 美子 (熊本大学 准教授)	3.0	大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、授業や教育プログラムの設計方法についてワークショップ形式で実践的に学びます。
2	授業デザインとシラバス作成	串本 剛 (東北大学 准教授)	3.0	教育目標・学習活動・学習成果の把握を構造化しながら、1学期・15回分の授業設計をいかに行うのか。実際のシラバス作成を通してワークショップ形式で学びます。
3	研究指導演習	出江 紳一 (東北大学 教授) 倉重 知也 (㈱イグニタス 代表取締役)	3.0	教員が学生に考えるヒントを与え、動機づけ、励まし、対話を行いながら、課題遂行を促す「コーチング」技術を用いた研究指導について、ワークショップ形式で学びます。

③専門領域別科目（選択必修 24 時間：いずれか 1 コースを選択）※オンライン・演習

産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

【目的】大学と産業界が緊密に連携することで、質保証がなされた 21 世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できるようになることを目的とします。

【学習目標】リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを広く学んだ上で、近年注目を集める STEM 教育及び産学連携教育、並びに、大学教育の質保証に関する国際的な最新動向について学びます。その後、アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL 型授業を設計し、実際に学生を相手に授業を行うことを通して、実践的な授業マネジメント力の修得を目指します。

【授業方法】1) 受講生は、1～4 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：各 30 分～1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各 2.0～2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。2) 5・6 の各学習項目については、講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなど指導を受け（5 時間）、授業設計（4 時間）を行った上で、模擬授業（振り返りを含む）を実施します（3 時間）。学習項目 5・6 の学習時間はそれぞれ 12 時間となります。

【履修方法】1) 学習項目 1～4 は必修です。2) 学習項目 5・6 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。3) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から 8 時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】学習項目 1～4 については、4 項目の小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。また、学習項目 5・6 については、それぞれの成果物（模擬授業を含む）について到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1～4 全て、学習項目 5・6 のうち少なくとも 1 項目において合格する必要があります。

学習項目		講 師	時間	概 要
1	リベラルアーツ教育論	吉田 文 (早稲田大学 教授)	3.0	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。 ※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」（動画視聴）
2	STEM・文理融合教育論	山田 礼子 (同志社大学 教授)	3.0	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策と STEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。 ※e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際 STEM プログラム」（動画視聴、英語による講演・日本語字幕）
3	産学連携教育論	吉本 圭一 (九州大学 名誉教授)	3.0	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。 ※e-learning「産学連携教育の国際動向—学術と職業を往還する WIL—」（動画視聴）
4	教育質保証論	深堀 總子 (九州大学 教授)	3.0	2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考えます。 ※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」（動画視聴）
5	リベラルアーツ・セミナー実践演習	大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授) 宇野 健司 (㈱大和総研 調査本部 副部長)	12.0	受講者が主体となって、アクティブラーニングによるセミナー型リベラルアーツ教育の授業を設計し、実際に模擬授業を行うことを通して、教育実践力を高めます。
6	PBL 設計・運営演習	松岡 洋佑 (㈱イノベスト 代表取締役/ 名古屋大学 招聘教員) 菱山 諒 (㈱イノベスト 取締役/ 一橋大学 非常勤講師)	12.0	受講者が主体となって、企業等の実課題に取り組む PBL 型授業を設計・運営し、相互フィードバックを通して、教育実践力を高めます。

インストラクショナルデザイン指導力育成コース

【目的】大学の授業の設計を効果的・効率的・魅力的に改善するためのスキル修得、並びに、改善された設計を実践するための教育環境構築のためのスキルの修得を目的とします。

【学習目標】

- ・学習者が生涯にわたって活用できるスキル習得を目指した授業設計ができる
- ・学習目標と評価情報と教授方法の整合性を満たした授業設計ができる
- ・授業を効果的・効率的・魅力的にするための授業設計の改善案を提示できる
- ・授業を効果的・効率的・魅力的にするために各種テクノロジーを用いた学習環境を構築できる

【授業方法】受講生は、各学習項目に関する Web のコンテンツを閲覧し、Web 上で指示されるタスク・課題に取り組みます。他の学習者との相互コメントを通じて、自己のスキル習得の練習と実践を行います。

1) 受講生は、1～4 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：各 30 分～1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各 2.0～2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。2) 5・6 の各学習項目については、講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなど指導を受け（5 時間）、授業設計（4 時間）を行った上で、模擬授業（振り返りを含む）を実施します（3 時間）。学習項目 5・6 の学習時間はそれぞれ 12 時間となります。

【履修方法】1) 学習項目 1～4 は必修です。2) 学習項目 5・6 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。3) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から 8 時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】コース必修学習項目は、各学習項目に用意された 3～5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。全ての課題の合格基準を満たすことで学習項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1～4 全て、学習項目 5・6 のうち少なくとも 1 項目において合格する必要があります。

学習項目		講 師	時間	概 要
1	基盤的 ID 論	鈴木 克明 (熊本大学 教授)	3.0	ID の基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出します。※e-learning
2	教材設計演習	平岡 斉士 (熊本大学 准教授)	3.0	自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行います。※e-learning
3	動機づけ理論活用演習	都竹 茂樹 (熊本大学 教授)	3.0	多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。※e-learning
4	e ポートフォリオ導入演習	松葉 龍一 (熊本大学 准教授) 久保田 真一郎 (熊本大学 准教授)	3.0	受講者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について習得します。※e-learning
5	大人の学びへと誘う教育改善演習	鈴木 克明 (熊本大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 合田美子 (熊本大学 准教授) 長岡千香子 (熊本大学 研究員)	12.0	学習目標、評価方法、授業方法の高度化・拡張のためのアイデアを提示し、それを用いた授業改善計画を提案する練習をします。
6	既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習	戸田 真志 (熊本大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 長岡 千香子 (熊本大学 研究員)	12.0	既存のツールやサービスを活用した学習環境を構築の例を参考にして、学習者自身の授業設計を各種ツールやサービスで実現します。

アントレプレナーシップ教育力育成コース

【目的】起業時や企業での新規事業開始に当たり必要な基礎知識を学ぶとともに、それらを指導・教育するための手法や技能を習得することを目的とします。

【学習目標】

- ・技術マネジメントの基本的な考え方を理解している。
- ・事例に基づく技術マネジメントの指導力を身に付けている。
- ・アントレプレナーが理解しておくべき基本的知識を理解している。
- ・アントレプレナーの育成体系を理解し、それを実践する力を有している。

【授業方法】

1) 受講生は、学習項目1について、Web上の動画コンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：1.5時間）、別途指示されるレポートの作成、その他の課題に取り組みます（事後学習：各0.5時間）。学習項目2に関しても、Web上の動画コンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：2.5時間）、別途指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各1.5時間）。学習項目1・2の学習時間はそれぞれ2及び4時間となります。

2) 学習項目3・4については、実践形式で実施される演習に参加し、与えられた実践課題に取り組みながら、そのコーチングスキルを講師から学ぶとともに、授業中に与えられる様々な課題や模擬指導に取り組みます。学習項目3・4の学習時間はそれぞれ4及び8時間となります。

【履修方法】1) 学習項目1～4は必修です。2) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から8時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】学習項目1・2については、それぞれのレポート及びその他課題について、あらかじめ設定している学習すべき要素を理解し、それが反映された記述となっているかをチェックリストを基に定量的に評価します。同様に、学習項目3・4については、実践演習課題の実施内容、ワークへの取組姿勢、コーチングに関するスキルの理解度をあらかじめ設定した項目ごとに定量的に評価します。合格となるためには、演習への主体的な参加（発言や行動）を通して、アントレプレナー育成の重要性を理解し、それらの教育手法を自らのものとしていることに加え、各学習項目を100点満点で採点し、60点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目1～4全てにおいて合格する必要があります。

学習項目		講 師	時間	概 要
1	技術マネジメント基礎論	鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	2.0	技術マネジメントとそれに関連する知識を学習します。 ※e-learning
2	アントレプレナーシップ基礎論	広瀬 正 (大阪府立大学 特認教授)	4.0	アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習します。 ※e-learning
3	技術マネジメントコンサルティング演習	鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	6.0	科学技術の事業化・産業化の考え方・プロセスの指導・育成法を事例に基づき学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコーチングスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。
4	ベンチャービジネスコンサルティング演習	広瀬 正 (大阪府立大学 特認教授)	12.0	事業化テーマのブラッシュアップ法を学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコーチングスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。

リーダーシップ開発力育成コース

【目的】「大学生のリーダーシップ教育（開発）」ができる実務家教員の育成を目的とします。

【学習目標】

- ・大学生のリーダーシップ教育に関わる大学の教育ニーズを理解できる。
- ・大学の教育ニーズに対応できるリーダーシップ教育プログラムを設計し、実行できる
- ・実施したリーダーシップ教育プログラムを内省し、改善できる。

【授業方法】

1) 受講生は、2～5 の学習項目については、オンライン会議システム(Zoom など)にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加し(各 1.5 時間)、Web 上で指示される小レポートの作成などの課題に取り組みます(事後学習:各 0.5 時間)。各学習項目の学習時間は 2 時間となります。2) 6～9 の各学習項目については、受講生が大学生を対象に実際に教育を行うために、オンライン会議システム(Zoom など)にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加します(各 1 時間)。これを踏まえてチーム別に授業設計を行った上で(事前学習:各 0.5 時間)、立教大学の学生を対象にオンライン模擬授業(振り返りを含む)を実施します(各 1.5 時間)。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。6～9 の各学習項目に参加する受講生チームは、教員組と参観組に分けられ、参観組は、教員組のオンライン模擬授業をリアルタイムでモニタリングし、ピア・レビューを行います。3) 1・10 の学習項目については、オンライン会議システム(Zoom など)にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生(チーム)が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加します(各 2 時間)。

【履修方法】

1) 学習項目 1～10 は必修です。2) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」(他コースの学習項目)から 8 時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】

1) 学習項目 2～5 については、4 項目の課題(小レポートやワークショップ報告書など)について到達度をルーブリックで評価します。2) 6～9 の学習項目については、チームを単位で評価します。教員組として参加した模擬授業については、担当教員とゲスト教員・参観組・模擬授業に参加した立教大生による 360 度フィードバック方式のルーブリックで評価します。同じく参観組として参加した模擬授業については、振り返りの時間でのピア・レビューの質を担当教員がルーブリックで評価します。3) 1・10 の学習項目については、その場でのチーム活動について到達度をルーブリックで評価します。以上のルーブリック評価の基準は、事前に公開する予定です。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、全ての学習項目に合格する必要があります。

学習項目		講 師	時間	概 要
1	イントロダクション	石川 淳 (立教大学 教授)	2.0	立教大学経営学部でのリーダーシップ教育は、以下の 3 つの理念に基づいています。 1) リーダーシップは、リーダーだけではなく、全員が発揮するものである 2) リーダーシップは、権限や権力がなくても発揮できるものである 3) リーダーシップは、生まれつきの才能よりは、日々の努力によって学習可能であるものである ここでは、上記の教育理念に関するリーダーシップ研究を紹介すると共に(講義)、教員と受講生との共通の理解を形成すること(討論)を目的とします。
2	リーダーシップ研究の理解	石川 淳 (立教大学 教授)	2.0	1950 年代から社会科学分野の分科学問として出発したリーダーシップ研究は、リーダーシップに関する多様な定義・アプローチ・知見を形成してきました。そして、現代のリーダーシップ研究は、【イントロダクション】で共有した 3 つの教育理念に概ね同意しています。ここでは、約 70 年間展開されたリーダーシップ研究の流れを概観すると共に、3 つの教育理念に至る経緯を検討します。
3	リーダーシップ研究方法論	金 善照 (立教大学客員准教授 ／福島大学准教授)	2.0	リーダーシップというテーマは、人類の文明が始まった瞬間から検討されてきました。今、この瞬間も書店街には、リーダーシップに関する数々の書籍が陳列されています。しかし、社会科学分野の学問としてのリーダーシップ研究は、厳密な研究方法論によって得られた科学的知識に他なりません。ここでは、リーダーシップに関する科学的「知識」が、類似科学としてのリーダーシップ「物語」といかに区分されるのかを検討します。そして、社会科学としてのリーダーシップ文献の検索方法を紹介します。また、現代のリーダーシップ研究は、統計などの計量的方法論を採択しています。授業では統計分析結果の読み方も検討する予定です。

4	リーダーシップ教育 の理解	山口 和範 (立教大学 教授)	2.0	立教大学経営学部では、「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)を2006年から持続的に実施しています。このプログラムの特徴は、以下の通りです。 1) 1回性の科目ではなく、複数の科目を段階別に履修する一貫性があること 2) 学外の実務家教員まで門戸を開放する包容性があること 3) 教員の役割を「SA」と呼ばれる立教の在学生と共有する主体性があること しかし、このような大胆な企画が最初から成功したわけではありません。ここでは、立教大学経営学部がBLPを始めた経緯と現在に至るまでの試行錯誤、そしてその過程で得られたノウハウを共有します。
5	リーダーシップ教育 方法論	舘野 泰一 (立教大学 准教授)	2.0	大学のリーダーシップ教育の理論的根拠は、人的資源開発(human resource development)にあります。ここでは、人的資源開発の下位分野として、リーダーシップ開発の手法と背景理論を概観します。そして、その実践例として立教大学経営学部の「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)の教育事例を共有します。
6	リーダーシップ模擬 教育研修 1	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0	ここでは、現代のリーダーシップ研究の主なテーマである変革型リーダーシップ、オーセンティック・リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、シェアド・リーダーシップを学生に身につけるための教育プログラムを設計し、実施する演習を行います。各学習項目では、まず、上記のリーダーシップスタイルに関して担当教員による講義が行われます。受講生は、チームを組んで、各リーダーシップスタイルに関する文献に基づき、リーダーシップ教育プログラムを設計し、現役の学生を対象に実施します。この模擬教育研修に対し、担当教員とゲスト・コメンテーター(BLP担当教員)、他の受講生チーム、参加した学生による360度フィードバックが提供されます。
7	リーダーシップ模擬 教育研修 2	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0	
8	リーダーシップ模擬 教育研修 3	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0	
9	リーダーシップ模擬 教育研修 4	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0	
10	まとめ	石川 淳 (立教大学 教授) 山口 和範 (立教大学 教授)	2.0	ここでは、4回のリーダーシップ模擬教育研修に対する内省をチーム・プレゼンテーションとワークショップの形成で共有します。体験後の振り返り(After-Event-Review)こそ、最も重要で効果的なリーダーシップ教育方法であるといわれています。この時間の目的は、リーダーシップ模擬教育研修における成功例と失敗例を「間主観的に」共有し、皆さんなりのリーダーシップ教育理念を導出することにあります。

自由選択 学習項目（計 8 時間以内）※提供コース <u>以外</u> の学習項目を選択可				
1	リベラルアーツ 教育論 ※産学連携リベラルアーツ教 育力育成コース提供	吉田 文 (早稲田大学 教授)	3.0	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつ つ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュ ラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構 造・原理について学びます。 ※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」(動画視聴) 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その 他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで 評価します。
2	STEM・文理融合 教育論 ※産学連携リベラルアーツ教 育力育成コース提供	山田 礼子 (同志社大学 教授)	3.0	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策と STEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文 理融合型による大学教育の学際化について考えます。 ※e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シン ガポールの新しい学際 STEM プログラム」(動画視聴, 英語によ る講演・日本語字幕) 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その 他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで 評価します。
3	産学連携教育論 ※産学連携リベラルアーツ教 育力育成コース提供	吉本 圭一 (九州大学 名誉教授)	3.0	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業 統合型学習(WIL)を例に、学術と職業を架橋し往還する 教育の可能性について考えます。 ※e-learning「産学連携教育の国際動向—学術と職業を往還す る WIL—」(動画視聴) 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その 他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで 評価します。
4	教育質保証論 ※産学連携リベラルアーツ教 育力育成コース提供	深堀 総子 (九州大学 教授)	3.0	2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動 きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の 学習成果(コンピテンス)に基づく質保証の実践と課題に ついて考えます。 ※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」 (動画視聴) 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その 他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで 評価します。
5	基盤的 ID 論 ※インストラクショナルデザ イン指導力育成コース提供	鈴木 克明 (熊本大学 教授)	3.0	ID の基本的な考え方について理解した上で、掲示板によ る議論を行うとともに、それを応用する課題(自身の教育 改善アイデア)を提出します。※e-learning 各学習項目に用意された 3~5 程度の課題について、あら かじめ公開された合格基準によって評価します 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その 他の課題に取り組みます。 【成績評価】用意された 3~5 程度の課題について、あら かじめ公開された合格基準によって評価します。
6	教材設計演習 ※インストラクショナルデザ イン指導力育成コース提供	平岡 斉士 (熊本大学 准教授)	3.0	自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授 業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練 習を行います。※e-learning 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その 他の課題に取り組みます。 【成績評価】用意された 3~5 程度の課題について、あら かじめ公開された合格基準によって評価します。
7	動機づけ理論活用 演習 ※インストラクショナルデザ イン指導力育成コース提供	都竹 茂樹 (熊本大学 教授)	3.0	多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じ て、自らの授業設計の改善を行います。※e-learning 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その 他の課題に取り組みます。 【成績評価】用意された 3~5 程度の課題について、あら かじめ公開された合格基準によって評価します。

8	e ポートフォリオ 導入演習 ※インストラクショナルデザイン指導力育成コース提供	松葉 龍一 (熊本大学 准教授) 久保田 真一郎 (熊本大学 准教授)	3.0	受講者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について習得します。 ※e-learning 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】用意された 3～5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。
9	技術マネジメント基礎論 ※アントレプレナーシップ教育力育成コース	鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	2.0	技術マネジメントとそれに関連する知識を学習します。 ※e-learning 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】オンライン学習でのレポート及びその他課題について、学習すべき要素を理解しそれを反映した記述となっているかをあらかじめ公開された合格基準によって評価します。
10	アントレプレナーシップ基礎論 ※アントレプレナーシップ教育力育成コース	広瀬 正 (大阪府立大学 特認教授)	4.0	アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習します。 ※e-learning 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】オンライン学習でのレポート及びその他課題について、学習すべき要素を理解しそれを反映した記述となっているかをあらかじめ公開された合格基準によって評価します。
11	リーダーシップ教育の理解 ※リーダーシップ開発力育成コース	山口 和範 (立教大学 教授)	2.0	立教大学経営学部では、「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP) を 2006 年から持続的に実施しています。このプログラムの特徴は、以下の通りです。 1) 1 回性の科目ではなく、複数の科目を段階別に履修する一貫性があること 2) 学外の実務家教員まで門戸を開放する包容性があること 3) 教員の役割を「SA」と呼ばれる立教の在学生と共有する主体性があること しかし、このような大胆な企画が最初から成功したわけではありません。ここでは、立教大学経営学部が BLP を始めた経緯と現在に至るまでの試行錯誤、そしてその過程で得られたノウハウを共有します。 【学習方法】オンライン会議システム (Zoom など) にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加した上で、Web 上で指示される小レポートやワークショップ報告書の作成などの課題に取り組みます。 【成績評価】課題 (小レポートやワークショップ報告書など) について到達度を担当教員がループリックで評価します。
12	リーダーシップ教育方法論 ※リーダーシップ開発力育成コース	舘野 泰一 (立教大学 准教授)	2.0	大学のリーダーシップ教育の理論的根拠は、人的資源開発 (human resource development) にあります。ここでは、人的資源開発の下位分野として、リーダーシップ開発の手法と背景理論を概観します。そして、その実践例として立教大学経営学部の「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP) の教育事例を共有します。 【学習方法】オンライン会議システム (Zoom など) にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加した上で、Web 上で指示される小レポートやワークショップ報告書の作成などの課題に取り組みます。 【成績評価】課題 (小レポートやワークショップ報告書など) について到達度を担当教員がループリックで評価します。

④教育イノベーター実践演習科目（12 時間：共通必修）

- 【目的】これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになることを目的とします。
- 【学習目標】実践知と学術知の往還を意識しながら自律的に構想した新規の取組案（授業、カリキュラム、プロジェクトの案等）の発表・討論を行うとともに、リフレクションレポートを作成することを通じ、本プログラム全体の学びと成長を振り返ることを目指します。
- 【授業方法】受講生が自ら構想した新規の取組案について、①事前準備（5.0 時間）、②対面指導（1.0 時間）、③成果発表会（3.0 時間）、④講評（1.0 時間）を行った上で、⑤リフレクションレポート（2.0 時間）を作成・提出します（計 12.0 時間）。
- 【成績評価方法】成果発表会での発表内容を含むリフレクションレポートについて、到達度をルーブリックで評価します。100 点満点で採点し、60 点以上で合格とします。

学習項目		講 師	時間	概 要
1	キャップストーン・プロジェクト	大森 不二雄 （東北大学 教授） 杉本 和弘 （東北大学 教授） 鈴木 克明 （熊本大学 教授） 戸田 真志 （熊本大学 教授） 松井 利之 （大阪府立大学 教授） 星野 聡孝 （大阪府立大学 教授） 山口 和範 （立教大学 教授）	12.0	受講生が自ら構想した新規取組案について、①事前準備、②対面指導、③成果発表会、④振り返り・講評を行った上で、⑤リフレクションレポートを作成・提出します。プログラムを通して修得した知識とスキルの統合と振り返りを行うことを通して「教育イノベーター」としての総まとめを行います。

2021 年度 産学連携教育イノベーター育成プログラム 日程表

科目	実施日（期間）	時間帯	学習項目		実施方法
大学教育基礎力科目	7月18日（日）	午後	1	オリエンテーション	オンライン（同期）
	7月18日（日） ～9月15日（水）		2	大学教育制度論	オンライン（非同期）
			3	学生・学習支援論	
			4	カリキュラムマネジメント	
			5	インストラクショナルデザイン	
			6	授業設計論	
			7	教育改善論	
			8	大学における倫理	
			9	学習評価論	
			10	オンライン授業実践論	
			11	ICT等先端技術活用教育論	
			12	実務家教員論	
	9月15日（水）締切			大学教育基礎力レポート	レポート
汎用的教育実践力科目	9月25日（土）	午後	1	インストラクショナルデザイン演習	オンライン（同期）
	9月26日（日）	午後	2	授業デザインとシラバス作成	
	10月16日（土）	午後	3	研究指導演習	
★応募時にいずれか1コース選択	産学連携リベラルアーツ教育力育成コース				
	汎用的教育実践力科目終了後 ～11月10日（水）		1	リベラルアーツ教育論	オンライン（非同期）
			2	STEM・文理融合教育論	
			3	産学連携教育論	
			4	教育質保証論	
	11月20日（土）・21日（日） ※2日間	終日	5★	リベラルアーツ・セミナー実践演習	対面もしくは オンライン（同期）
	11月27日（土）・28日（日） ※2日間	終日	6★	PBL 設計・運営演習	
	備考：★5・6はいずれか少なくとも1つを選択。5は、授業参観（5時間：対面もしくはオンライン）、模擬授業の設計（4時間：自己学習）、模擬授業の実施（3時間：対面もしくはオンライン）によって構成される。6は、授業参観（5時間：対面もしくはオンライン）、模擬授業の設計（4時間：自己学習）、模擬授業の実施（3時間：対面もしくはオンライン）によって構成される。				
	インストラクショナルデザイン指導力育成コース				
	大学教育基礎力科目終了後 ～12月3日（金）		1	基盤的 ID 論	オンライン（非同期）
			2	教材設計演習	
			3	動機づけ理論活用演習	
			4	e ポートフォリオ導入演習	
	11月20日（土）午後、もしくは21日（日）午前のいずれか1日		5★	大人の学びへと誘う教育改善演習	対面もしくは オンライン（同期）
	11月27日（土）午後、もしくは28日（日）午前のいずれか1日		6★	既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習	
	備考：★5・6はいずれか少なくとも1つを選択。5と6は、事前学習（オンライン非同期7時間）、対面（東京：予定）またはオンライン同期ワーク（3時間）、事後学習（オンライン非同期2時間）によって構成される。				
	アントレプレナーシップ教育力育成コース				
	汎用的教育実践力科目終了後 ～10月25日（月）		1	技術マネジメント基礎論	オンライン（非同期）
			2	アントレプレナーシップ基礎論	
	10月13日（水）・27日（水）	14:35～17:45	3	技術マネジメントコンサルティング演習	対面（大阪：予定）&他地域とオンライン同期
	10月26日（火）・11月2日（火）・9日（火）・16日（火）	14:35～17:45	4	ベンチャービジネスコンサルティング演習	対面（大阪：予定）&他地域とオンライン同期
	備考：10月5日（火）履修オリエンテーション、11月17日（水）履修フォローアップを実施します。16:15-17:45（オンライン同期で実施、出席不可の場合後日非同期受講も可能です。）				
	リーダーシップ開発力育成コース				
10月3日（日）	午前	1	イントロダクション	オンライン（同期） 事前視聴動画あり	
10月3日（日）	午前	2	リーダーシップ研究の理解		
10月10日（日）	午前	3	リーダーシップ研究方法論		
10月17日（日）	午前	4	リーダーシップ教育の理解		
10月10日（日）	午前	5	リーダーシップ教育方法論		
10月17日（日）・24日（日）	午前	6	リーダーシップ模擬教育研修1		
10月24日（日）・31日（日）	午前	7	リーダーシップ模擬教育研修2		
10月31日（日）・11月7日（日）	午前	8	リーダーシップ模擬教育研修3		
11月7日（日）・14日（日）	午前	9	リーダーシップ模擬教育研修4		
11月14日（日）	午前	10	まとめ		
備考：全てオンラインにて実施					
イノベーター実践教育	12月11日（土）・12日（日） ※2日間	終日		キャップストーン・プロジェクト	対面もしくは オンライン（同期）

【対面を実施する場合の会場（予定）】

- ① 東京：23区内の会場
② 仙台：東北大学 川内北キャンパス（宮城県仙台市青葉区川内 41）

- ③ 熊本：熊本大学 黒髪キャンパス（熊本市中央区黒髪 2-39-1）
④ 大阪：大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス（大阪府堺市中央区学園町 1-1）